中国建築大賞 2024 総評

審査員長　古谷　誠章

二次審査のタイミングが例年よりやや遅くなりましたが、今年も中国建築大賞の審査を無事に終わることができました。今年は12月に広島大学の東千田キャンパスにおいて、一次審査を応募者による対面でのプレゼンターションによって行い、作品に対する資料以上に理解を深めることができました。応募された皆さんはもちろん、準備に当たられた実行委員会の皆さんにも、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

年が明けた2025年3月7日～9日の3日間にわたり、住宅3作品と一般６作品を見て回りました。岡山、福山、尾道、呉、広島に加えて、本年は山陰側の島根県大田とバラエティに富んだ風土の中で、それぞれの建築家の取り組みに大いに感心させられました。住宅部門への応募でしたが、実作を見て部門の変更したものもあり、これまでのカテゴリーを越境する試みもなされています。

住宅部門の3作品はそれぞれに対照的な個性を感じました。クライアントも様々、建築家の対応ぶりも様々です。大賞《牛田本町の家》は無駄のない素朴な意匠と思い切りの良い空間構成のコンビネーションが絶妙で、都市におけるこれからの二世帯住居の型を切り拓くものでした。設計者である吉田豊建築設計事務所は、以前にもシンプルで明快な作品で優秀賞を獲得しましたが、今回はその質が一段と高まったと思います。RORによる優秀賞《coprino》は玉野市郊外の主要道路に面する一軒家で、クライアントの希望により極端に開口部を少なくした住宅です。しかし一旦中に入ると、わずかな明かりが各所から採りこまれ、不思議な落ち着きを与える空間でその意図する効果がでています。

一般建築部門の大賞は、メグロ建築研究所による《福山東警察署駅前交番庁舎》で、新幹線高架と駅前の中層ホテルの間に建ち、小さいボリュームでありながら、駅前のモニュメントを思わせるとても存在感のある建築です。周囲の建物ボリュームと対峙しつつ、交番の所要機能をうまく再構成して周囲と対話する極めて聡明な建築と感じました。優秀賞2作品《邑咲館》（y＋m design office 他）と《Oshigome Base》（小松隼人建築設計事務所）は、いずれも周囲の土地の環境を読み解き、棟の配置やや年の形状などに工夫された秀作で、実際に訪れてみるとその良さがわかりました。

一般建築部門で特別賞とされた清水建設他による《岡山大学共育共創コモンズ（OUX：オークス）》地元産製品であるCLTの特性を存分に活かした講義棟の計画で、意欲的な挑戦と思います。特に妻面のCLTとRCのハイブリッドだからこそできる独特の市松模様の外壁は圧巻でした。

人の暮らし方がますます多様化し、今までにない機能や技術への挑戦の機会が増えて、建築家の想像力と、建築の形にまとめる力量が問われています。奨励賞を含む全ての作品が中国地方の魅力をさらに発展させる、未来を予感させるものとして大いに評価したいと思います。